

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街神田 (1階)		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865		
自己評価作成日	令和5年10月3日	評価結果市町村受理日	令和6年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、安心できる環境の中でこれまで築き上げてきた家族や地域社会との関係を断ち切ることなく、暮らしていけるよう支援しています。
 ご入居者様が今まで家庭で仕事・料理や洗濯、掃除など、生活リハビリとして、お手伝いをしてもらえるような雰囲気づくり。身内や知人を入居させたいと思えるようなグループホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200558-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 10 月 25 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、毎月店長会議にて法人内他事業所との意見交換を図り、職員とともに、法人理念に基づく事業所運営に取り組んでいる。地域住民とのつながりを継続し、事業所駐車場の活用や地域行事への協力など、具体的な活動について検討している。管理者は、個人面談や内部研修にて、職員からの意見の吸い上げと資質向上を図り、法人本部とともに、働きやすい職場環境作りにも尽力している。管理者・ケアマネジャー・職員は、タブレットを活用した「支援経過記録」作成により情報を共有して、利用者の状態・希望や意向、残存能力に沿った介護計画作成に努め、利用者の入居前からの暮らしぶりの継続の支援を心掛けている。協力医による訪問診療と、併設する事業所に常駐する法人看護師により利用者の健康管理を行い、緊急時でも職員は安心して対応ができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい挨拶、明るい対応」を理念とし、明るく元気に過ごしていただけるよう、笑顔で対応している。	管理者は、毎月1回、店長会議にて法人内他事業所との意見交換・情報共有を図っている。事業所では都度ミーティングにて職員間の情報共有を図り、法人理念に基づく目標達成に向け、全職員が取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に、近所の方とのあいさつを交わしている。	コロナ禍により交流は制限されたが、自治会の回覧板・散歩時の挨拶など、地域住民とのつながりは継続してきた。災害時における事業所駐車場の活用やお祭りの際の協力など、具体的な活動について話し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員との連携を通して、周知してもらっている。長年の積み重ねにより、信頼関係を築き上げてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ2年間は、紙面開催しており、2か月に一度、施設の現状報告をし、意見を求めて助言をいただいている。	コロナ禍の折にも書面開催にて、2か月に1回継続して実施してきた。6月以降は対面で開催し、市・地域包括支援センター職員、自治会・民生委員、家族代表の参加がある。委員からの質問や意見を議事録にまとめ、全職員が情報を共有して、事業所運営に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ここ2年間は、コロナ禍により、直積的に交流はできていなかったが、運営推進会議再開を機として、改めて協力関係を築いていく。	対面開催での運営推進会議にて、活発な意見交換・情報共有を図り、事業所運営について常に相談することができる。法人本部とも連携しながら、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、抑制・拘束のない施設を目指し、実践している。	2か月に1回、運営推進会議開催時に「身体拘束廃止委員会」を行い、施設内自己点検と事例検討を行っている。指針・マニュアルを整え、年2回職員研修(レポート提出)を行い、職員と共に、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、ミーティング時に、研修内容を職員に落とし込み、理解を深めて、虐待防止を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて、代表者が参加して、ミーティング時に、研修内容を落とし込み、理解を深め、日々の業務に取組んでもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、説明しながら、不安や疑問点を尋ねて、理解、納得していただいている。利用開始してからも、何か不明点があれば、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望に対して、その都度迅速に対応している。施設に直接言えない場合は、本社窓口があり、契約書等に記載して周知している。	コロナ禍でも面会室を開放して、家族の希望を聞きながら、面会機会を継続していた。管理者は、面会時だけでなく、家族による通院や衣替えなどの訪問時には、都度、家族への声掛けを心掛けている。	コロナ禍でも面会を継続し、家族からの意見の聴き取りに注力してきましたが、事業所への家族からの要望や意見を聴き取る方法として、「家族アンケート」実施の検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、日頃のコミュニケーションの中で行き、その都度上長に報告して、本社に伝えられ、反映させている。	管理者は、ミーティングや年2回の個人面談にて職員との意見交換を図り、職員からの意見の聴き取りに注力している。毎月行う法人内部研修の報告やキャリア・パス制度など、職員の資質向上の仕組みを整え、働きやすい環境作りを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。キャリア・パス制度も導入されている。また、人事考課システムも導入され、給与水準向上に活かされている。離職を減らすために働きやすくやりがいがある環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修、外部研修などの参加を促し、積極的に、希望者は参加してもらうよう対応している。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍が続き、外部での研修は少なくなり、以前に比べて、交流する機会は減っているのが現状である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人と会話をしたり、コミュニケーションをとっている。情報収集をもとに安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して入居していただけるように、事前にアセスメントをとり、困っていることや意向など伺い、サービスにつなげている。馴染みの関係を保ち、その日その時の状況に応じた対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時、本人や家族に今何が必要なのか伺う。ご本人やご家族がグループホームでの生活に望むことを聞き、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様それぞれに合った役割を提案し、掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、食器洗いなどを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により状況に応じて、面会制限をする事もあったが、徐々に緩和して、外出もできるように体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により状況に応じて、事前に連絡をいただき、応接室にて面会等に対応している。	コロナ禍であっても、応接室を開放して、面会機会を支援してきた。月1回訪問理美容の利用や他の利用者や職員との会話など、事業所での暮らしが馴染みの関係となるよう、配慮した支援を心掛けている。	

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係構築と、それ以外の利用者同士も、職員がパイプ役になり毎日穏やかに生活できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談もあり、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知度レベルが落ちてきているため、それぞれの思いや希望をうかがっても難しい人もいたため、普段の会話の中で探し出している。	併設事業所利用者の入居も多く、協力して情報収集を図り、利用者や家族の思いや意向をフェイスシートにまとめて、職員と情報を共有している。入居後は、手書きの支援シートで都度意見交換を図りながら、利用者・家族の意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き取り、馴染みややすい生活環境になるように、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き取り、馴染みややすい生活環境になるように、他ご利用者様とストレスなく一緒に生活できるかその実態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人がご利用者様の現状把握に努め、ケア内容について希望があればカンファレンスを行い、担当者会議を開くなどして家族と相談。よりよい生活ができるようミーティングで話し合っている。	利用者の状態は、タブレットを活用した「支援経過」に記録して職員間で情報を共有し、常に確認することができる。管理者・ケアマネジャーは都度状況を把握しながら、カンファレンス・モニタリングに繋げて、職員と話し合いながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食事量や排泄など毎日様子を観察し、気づいた点があれば、随時報告、話し合い、個別記録やスタッフ連絡ノートに記載している。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的機能低下や認知症の症状が悪化したときに、ここで何が出来て、何が出来なくなっているかの問題点や課題をあげ、ミーティングにて検討し職員一人一人が柔軟に考え対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば、対応にあたっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、訪問診療は行っている。また、医師からの助言・家族の希望を含め適切に対応している。	協力医による訪問診療(月2回)と法人常勤看護師の定期訪問により、利用者の健康を管理している。協力医は24時間オンコール体制により夜間・緊急時でも対応している。併設事業所に看護師が常駐しているため、職員は安心して対応ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察を基に、気づいた点・変化等を看護師に報告し指示を仰ぐ体制は確立している。看護師の指示の下、適切な対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時情報提供を実施し、病院医療連携室との関係づくりを円滑に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント時、または契約時に終末期においても入居可能であることを、医療的な処置が必要な場合を除き説明し、ターミナルの考え方を本人・家族に確認するなど、柔軟に対応している。	看取りの指針を整え、入居時に事業所での対応を説明して、利用者・家族の同意を得ている。急変時には医師とともに再度家族の意向を確認し、家族の希望に沿って対応している。管理者・職員は、定期的に法人看護師による研修を行い、適切な支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・内部研修にて行っている。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と合同で年2回、火災訓練・避難訓練等実施している。法人でも対策本部が置かれており、いつでも援助してもらえる体制が整っている。地域の方々にも協力をお願いしている。	災害対策訓練は、併設事業所と共に年2回テーマを決めて実施している。水害時の駐車場活用について、地域住民と検討している。水・食料品の備蓄品は、法人本部と協力しながら管理している。	訓練実施により得た課題は、次回訓練へ継続して改善されることが重要であり、継続した訓練計画の実践を期待します。災害時業務継続計画(BCP)策定に向け、令和5年度末までに地域住民との連携を含めた計画の検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として、人生の大先輩としてのプライドを傷つけないよう職員一人一人の言動に注意し、対応にあたっている。	個人情報保護や写真掲載について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。法人と管理者は、接遇マナー等に関する職員研修を定期的に行い、プライバシーに配慮した接遇や声掛けを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解に応じて、何気ない会話の中からも、希望や思いを表出できるよう雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生きてきた生活習慣や環境、または性格や年齢も違うため、決められたスケジュールに縛られずに個々のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思・意向に応じて、洋服の組み合わせを考えたり、訪問理美容に来てもらい、カットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスで提供するお食事の味付けを直したり、盛り付け等を工夫している。食事後の片付け時、お盆を拭いてもらっている。	配食サービスを利用しながらご飯・味噌汁を手作りして、利用者の好みに応じた食事を提供している。行事食や手作りおやつを設け、食事を楽しむ工夫を心掛けている。利用者の残存能力に合わせて、盛り付けや片付けをともに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、水分量を記録し特別な状態であれば、主治医または看護師に連絡し、指示を仰いでいる。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ誘導にて行っている。自立しているご利用者様に対して、必ず最後に口腔内の確認をとっている。入れ歯の方も確認をとり、洗浄液につけるなど清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて個々の排泄パターンを把握し、確認をとりながら、トイレの声かけ誘導をし、対応している。	職員は、タブレットを活用して「排泄管理表」を記録し、利用者個々の排泄パターンを確認することができる。夜間ポータブルトイレ利用者も、日中はトイレ利用を促し、安全に配慮しながら利用者の状態に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表に排便の量など記録している。便秘にならないように、水分を補給してもらうよう声かけしている。便秘が続くようであれば、看護師に伝え、主治医に連絡または訪問診療時に報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴管理表やその日のバイタル状況を確認し、入浴の声かけをしたり、本人の希望に応じている。	週2回、午前中を目途に、利用者の希望や状態に配慮しながら入浴を支援している。入浴剤を利用したり、シャワー浴や午後の足浴など、利用者が気持ち良く入浴できるように、工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に少し横になりたいと訴えがあれば、居室にて昼夜逆転にならない程度に横になっていただく。就寝の際は本人の訴えがあれば居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をコピーし各ユニットで保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。状況に変化があれば、往診の先生に連絡・相談をかけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様に応じて、興味ある事に取り組んでもらっている。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍が続き、外出は出来なくなってきているが、近隣への散歩は行っている。	事業所周辺の散歩や、中庭・ベランダにて気軽に外気浴ができるよう、工夫しながら支援している。コロナ禍前のような外食や買い物の機会は少ないが、利用者個々の状態や希望に合わせた外出支援を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いのもと、実行できるときはしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあれば、自由にやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方達が混乱しない環境整備を心掛けている。空調も多種多様な希望があるため、できる限り一人一人の希望を聞くよう努力している。季節ごとの花を飾ったり、掲示物を貼ったりして楽しんでもらえるよう心掛けている。	朝から2時間ごとの換気と定期的な消毒、毎朝の清掃により、感染防止・衛生に配慮した環境作りに努めている。職員は、安全に配慮して整理整頓を行い、季節感のあるくつろげる共有空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで同テーブルの人と過ごしたい人やソファや畳、居室で過ごしたい人など希望に沿った場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるよう契約時に使い慣れた物を用意していただくよう伝え、普段の就寝状態を崩さないようにしている。	居室には名札を付け、入居時に馴染みの家具やテレビを持ち込み、利用者好みの空間作りを心掛けている。衣替えなど家族の協力を得ながら、入居前の生活が続けられるよう、個々の暮らしぶりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに名前を付け、目的の場所に行けるようにしている。また、安全に生活できるようゆとりある空間作り、環境作りを心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街神田 (2階)		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865		
自己評価作成日	令和5年10月3日	評価結果市町村受理日	令和6年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200558-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 10 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、安心できる環境の中でこれまで築き上げてきた家族や地域社会との関係を断ち切ることなく、暮らしていけるよう支援しています。
ご入居様が今まで家庭で仕事・料理や洗濯、掃除など、生活リハビリとして、お手伝いをしてもらえるような雰囲気づくり。身内や知人を入居させたいと思えるようなグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい挨拶、明るい対応」を理念とし、明るく元気に過ごしていただけるよう、笑顔で対応している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に、近所の方とのあいさつを交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員との連携を通して、周知してもらっている。長年の積み重ねにより、信頼関係を築き上げてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ2年間は、紙面開催しており、2か月に一度、施設の現状報告をし、意見を求めて助言をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ここ2年間は、コロナ禍により、直積的に交流はできていなかったが、運営推進会議再開を機として、改めて協力関係を築いていく。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、抑制・拘束のない施設を目指し、実践している。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、ミーティング時に、研修内容を職員に落とし込み、理解を深めて、虐待防止を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて、代表者が参加して、ミーティング時に、研修内容を落とし込み、理解を深め、日々の業務に取組んでもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、説明しながら、不安や疑問点を尋ねて、理解、納得していただいている。利用開始してからも、何か不明点があれば、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望に対して、その都度迅速に対応している。施設に直接言えない場合は、本社窓口があり、契約書等に記載して周知している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、日頃のコミュニケーションの中で行い、その都度上長に報告して、本社に伝えられ、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。キャリア・パス制度も導入されている。また、人事考課システムも導入され、給与水準向上に活かされている。離職を減らすために働きやすくやりがいがある環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修、外部研修などの参加を促し、積極的に、希望者は参加してもらうよう対応している。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍が続き、外部での研修は少なくなり、以前に比べて、交流する機会は減っているのが現状である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人と会話をしたり、コミュニケーションをとっている。情報収集をもとに安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して入居していただけるように、事前にアセスメントをとり、困っていることや意向など伺い、サービスにつなげている。馴染みの関係を保ち、その日その時の状況に応じた対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時、本人や家族に今何が必要なのか伺う。ご本人やご家族がグループホームでの生活に望むことを聞き、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様それぞれに合った役割を提案し、掃除、洗濯干し、洗濯たみ、食器洗いなどを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により状況に応じて、面会制限をする事もあったが、徐々に緩和して、外出もできるように体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により状況に応じて、事前に連絡をいただき、応接室にて面会等に対応している。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係構築と、それ以外の利用者同士も、職員がパイプ役になり毎日穏やかに生活できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談もあり、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知度レベルが落ちてきているため、それぞれの思いや希望をうかがっても難しい人もいるため、普段の会話の中で探し出している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き取り、馴染みやすい生活環境になるように、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き取り、馴染みやすい生活環境になるように、他ご利用者様とストレスなく一緒に生活できるかその実態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人がご利用者様の現状把握に努め、ケア内容について希望があればカンファレンスを行い、担当者会議を開くなどして家族と相談。よりよい生活ができるようミーティングで話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食事量や排泄など毎日様子を観察し、気づいた点があれば、随時報告、話し合い、個別記録やスタッフ連絡ノートに記載している。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的機能低下や認知症の症状が悪化したときに、ここで何が出来て、何が出来なくなっているかの問題点や課題をあげ、ミーティングにて検討し職員一人一人が柔軟に考え対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば、対応にあたっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、訪問診療は行っている。また、医師からの助言・家族の希望含め適切に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察を基に、気づいた点・変化等を看護師に報告し指示を仰ぐ体制は確立している。看護師の指示の下、適切な対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時情報提供を実施し、病院医療連携室との関係づくりを円滑に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント時、または契約時に終末期においても入居可能であることを、医療的な処置が必要な場合を除き説明し、ターミナルの考え方を本人・家族に確認するなど、柔軟に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・内部研修にて行っている。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と合同で年2回、火災訓練・避難訓練等実施している。法人でも対策本部が置かれており、いつでも援助してもらえる体制が整っている。地域の方々にも協力をお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として、人生の大先輩としてのプライドを傷つけないよう職員一人一人の言動に注意し、対応にあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解に応じて、何気ない会話の中からも、希望や思いを表出できるよう雰囲気作りには心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生きてきた生活習慣や環境、または性格や年齢も違うため、決められたスケジュールに縛られずに個々のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思・意向に応じて、洋服の組み合わせを考えたり、訪問理美容に来てもらい、カットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスで提供するお食事の味付けを直したり、盛り付け等を工夫している。食事後の片付け時、お盆を拭いてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、水分量を記録し特別な状態であれば、主治医または看護師に連絡し、指示を仰いでいる。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ誘導にて行っている。自立しているご利用者様に対して、必ず最後に口腔内の確認をとっている。入れ歯の方も確認をとり、洗浄液につけるなど清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて個々の排泄パターンを把握し、確認をとりながら、トイレの声かけ誘導をし、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表に排便の量など記録している。便秘にならないように、水分を補給してもらうよう声かけしている。便秘が続くようであれば、看護師に伝え、主治医に連絡または訪問診療時に報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴管理表やその日のバイタル状況を確認し、入浴の声かけをしたり、本人の希望に応じている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に少し横になりたいと訴えがあれば、居室にて昼夜逆転にならない程度に横になっていただく。就寝の際は本人の訴えがあれば居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をコピーし各ユニットで保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。状況に変化があれば、往診の先生に連絡・相談をかけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様に応じて、興味ある事に取り組んでもらっている。		

静岡県(グループホームあいの街神田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍が続く、外出は出来なくなってきているが、近隣への散歩は行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いのもと、実行できるときはしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあれば、自由にやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方達が混乱しない環境整備を心掛けている。空調も多種多様な希望があるため、できる限り一人一人の希望を聞くよう努力している。季節ごとの花を飾ったり、掲示物を貼ったりして楽しんでもらえるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで同テーブルの人と過ごしたい人やソファや畳、居室で過ごしたい人など希望に沿った場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるよう契約時に使い慣れた物を用意していただくよう伝え、普段の就寝状態を崩さないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに名前を付け、目的の場所に行けるようにしている。また、安全に生活できるようゆとりある空間作り、環境作りを心掛けている。		